



# 地にひそむ生命を腕に

令和7年度 佐伯市立昭和中学校 学校通信

NO.07

令和7年10月23日

文責:校長 川野 匡



## 今年もやります！昭和フェスタ！

今年の昭和フェスタは、「文化の部」10月24日(金)午前、「スポーツの部」25日(土)午前に予定しています。

「文化の部」は体育館で行います。「学習活動の成果を発表し、文化や芸術に親しみ、学習への意欲を高める」のが目標です。英語弁論、各学年の「総合的な学習の時間」の学習内容の発表、ステージパフォーマンス、そして合唱があります。

「スポーツの部」はグラウンドで行います。短距離走、各学年団体競技、学級対抗リレー、そして全校団体競技があります。

8月27日(水)、生徒による実行委員会の進行で説明会が開かれたのが、スタート。それから約2ヶ月の間に、5回の全校合唱練習 4回の各学年の合唱練習、学級での合唱練習、4回の全校練習、6回の各学年の練習、昼休みも合唱やリレー練習を重ねてきました。

最初に私からこんな話をさせていただきました。

「人はそれぞれ違う。得意なことも、不得意なことも違う。違う人同士が力を出し合って1つのことに取り組む。みんなを待っている社会は、そうしてできている。昭和フェスタでは、違いを超えて、違いを支え合って、1つの合唱をつくりあげる。勝利に向かって練習を重ねる。教室に座ってする勉強も大切だが、実はこうした行事が、みんなが社会で生きていく力に直結している。よい経験を積むことを期待しています。」

今年も、実行委員会を中心に、生徒たちのがんばる姿がたくさん見られました。互いを受け入れあい、支え合う姿も、そして、これまで以上に積極性を発揮してくれた生徒もいました。

みんなの前で、指示を出す。みんなが見ている中で歌を唱う。みんなに向かって発表する。みんなのために走る。みんなはどう思っているんだろう。失敗したらなにか言われるかも知れない。悪いうわさになるかもしれない。

今の中学生は、SNSが浸透しきった世界を生きています。もしかするとこの恐れは、私たち世代が想像できないほどかも知れません。

それでも、逃げずにスポットライトの中に立つ。スタートラインに向かう。背中を押してくれる仲間が居る。見守ってくれる家族が居る。

明日は、いよいよ本番です。

生徒1人1人の心に刻まれる2日間であることを願っています。

## 弥生の空に

学校教育の1番の価値は、「1人ではできない学びが得られる」ことだと思います。このことだけは、異論をはさむ余地はないのではないかでしょうか。

教育についての研究は、日々進歩、発展しています。膨大なデータから精緻に因果関係を割り出すことができるようになってきたそうです。2022年の日本の研究にこんなおもしろいものがありました。

体育祭(本校では昭和フェスタスポーツの部)の取組の前後で生徒にどのような影響があるか、行動観察だけでなく高度な統計的な手法で測定した物です。その結果、生徒の「自分で決める力・やり抜く力」「仲間と協力する力」「がんばれる力」「自信を持って挑戦する力」「考えを伝える力」すべてにおいて効果があることがわかりました。

さらに、大学生に対して行った研究もあります。中高生時代に学校行事を充実して体験した学生は「勉強にがんばれる力」と「心のたくましさ」が高い傾向があることがわかりました。

学校行事は、学校生活に彩りをあたえる通過儀礼などではなく、今世界的に注目されている「非認知能力」の醸成に大きく貢献するものであり、しかもそれが長期的な社会適応力として持続するものであるということです。

私たちが中学生だった頃にもあった学校行事。あたりまえに思えるこの営みが、実は我が国の公教育の宝だったということです。

研究はさらにこんなことも示唆してくれています。行事の効果を最大化するための条件があり、それが生徒の自主性を最大限に保障すること。できるだけ生徒が決め、生徒が行動し、生徒が振り返る。これが要。

本校の昭和フェスタも、実行委員形式により、生徒が主体となって練習に取り組んできました。

単に知識や技能を身につけるだけなら、動画やタブレットで完結するかも知れません。しかし、学校行事は、決して1人ではできません。いろんな仲間がいて、はじめて身につく力があります。